

平成29年4月25日（火）

泡盛業界の経営に関する現状と課題

～泡盛業者の財務指標の特徴について～



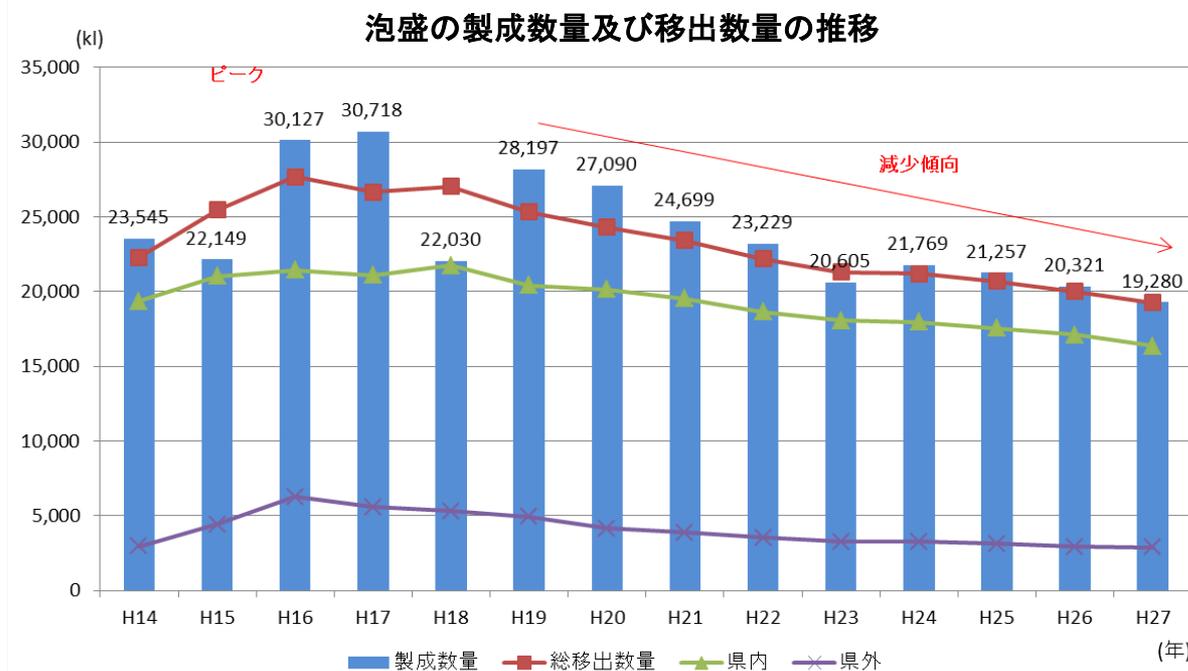


1. 財務指標の分析について

- ・沖縄公庫の継続取引先の財務データにより分析
- ・総資産規模10億円以上(Aグループ)、未満(Bグループ)で区分
- ・各指標について、全国平均値を併記(平成28年度版TKC経営指標、「蒸留酒・混成酒製造業」)(以下、(※)表示)
- ・財務指標は、16年度、27年度を掲載

(※)平成28年度版「TKC経営指標」(発行:TKC全国会)は、全国の235,103社の法人企業の平成27年1月期から12月期決算に基づく経営分析値を収録。この「TKC経営指標」は、TKC全国会に加盟する職業会計人(税理士・公認会計士)が、その関与先である中小企業に対し、毎月企業に向いて行う「巡回監査」と「月次決算」により、その正確性と適法性を検証した会計帳簿を基礎とし、その会計帳簿から作成された「決算書」(貸借対照表・損益計算書)を基礎データとしている。なお、これらの決算書はそのまま法人税申告に用いられている。

【前提】業界動向



(注) 製成数量、移出数量は30度換算ベース
資料: 沖縄県酒造組合連合会ホームページ



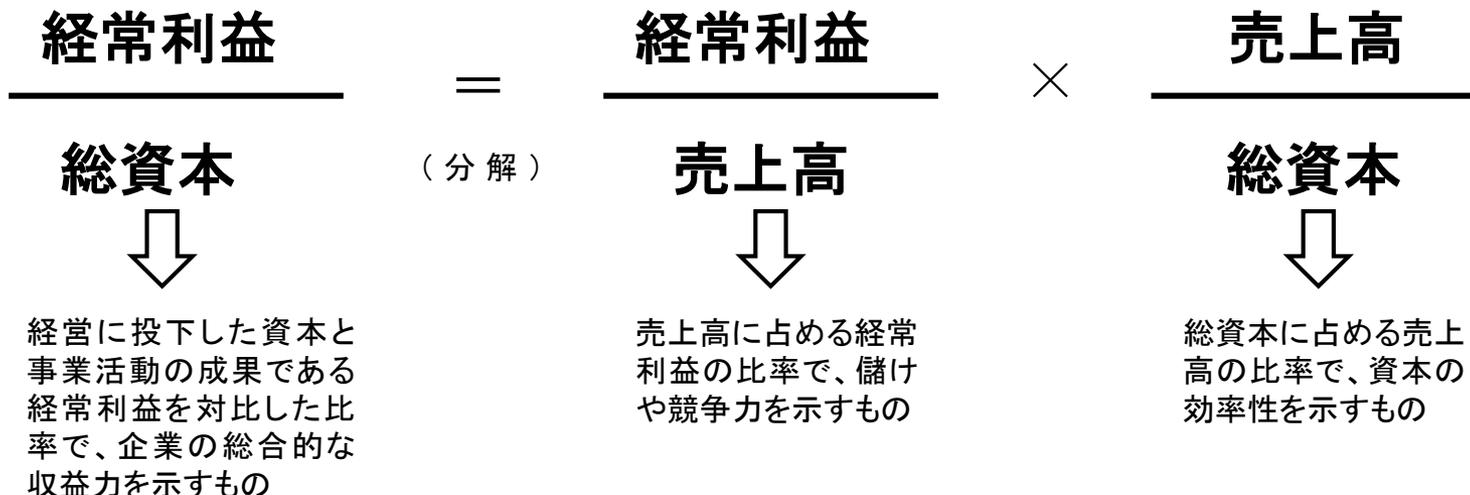
2. 収益性の分析

代表的な財務指標を用いた分析

(1) 総資本経常利益率

(2) 売上高経常利益率

(3) 総資本回転率



(1) 総資本経常利益率(%)

	16年度	27年度	全国27年度※
Aグループ	13.1	0.4	2.5
Bグループ	10.2	▲0.6	

・収益力が著しく低下 ⇒ その要因は...



(2) 売上高経常利益率(%)

	16年度	27年度	全国27年度※
Aグループ	15.6	0.7	4.1
Bグループ	8.8	▲2.1	

・利益率が大幅に低下

(3) 総資本回転率(回)

	16年度	27年度	全国27年度※
Aグループ	0.9	0.4	0.6
Bグループ	1.3	0.4	

・資本効率が低下

⇒ 分解した結果、利益率、資本効率ともに悪化、特に利益率の悪化が著しい

(4) 棚卸資産回転期間(月)～製造してどれくらいの月数で販売をするか示すもの

	16年度	27年度	全国27年度※
Aグループ	3.2	13.7	4.2
Bグループ	3.4	12.3	

・在庫負担の大幅増



3. 安全性の分析

(1) 当座比率(%)～短期の支払能力があるかを示すもの

	16年度	27年度	全国27年度※
Aグループ	94.3	39.1	147.6
Bグループ	136.9	58.5	

・全国平均を大幅に下回る水準

(2) 自己資本比率(%)～健全な経営で財務基盤が強いかを示すもの

	16年度	27年度	全国27年度※
Aグループ	29.7	30.6	58.3
Bグループ	31.8	18.9	

・全国平均を下回る水準

4. まとめ

売上の大幅減少、生産効率低下(設備の過剰化)、在庫負担増